



- 通訳案内士試験は難問・奇問が多く、必ずしも通訳ガイドの実務に沿った内容になっていない等との指摘が多い。
- 制度全般の抜本的な見直しについては、検討会での議論を踏まえて行うが、試験内容の見直しについては、可能な限り来年度の試験に反映させるべく、今般、試験ガイドラインを見直すこととしたい。

【平成27（2015）年】

- 4月初旬 **試験問題の作成** 
- 5月上旬 官報公示
(試験日程等)
- 5月中旬 願書受付
～6月下旬
- 8月下旬 第1次試験（筆記）**
- 11月中旬 合格発表（第1次試験）
- 12月上旬 第2次試験（口述）**

- ・試験問題作成に必要な期間の確保
- ・受験者等への周知期間の確保
(JNTOホームページ等にて、ガイドライン公開)



**平成27年度試験に向け、
試験ガイドラインの改正内容を
年度内に固めることが必要**

【平成28（2016）年】

- 2月上旬 最終合格者発表

今後の出題方針として、語学科目については、外国人旅行者と適切に意思疎通が図れる水準を求める一方、その他の科目については、外国人旅行者の関心の高い事柄等に関する基礎的な知識を問う内容・形式とする。

現行

第1次試験（筆記）

【外国語】

- ・ 外国語→日本語訳する力を重視した配点
外国語長文の読解（35点） 外国語文の和訳（15点）
和文の外国語訳（15点） 外国語による単語説明（20点）
単に外国語・日本語の同じ意味の単語を選ぶもの（15点）

【日本地理、日本歴史】

- ・ 日本地理、日本歴史について主な事柄（日本と世界の関わりを含む。）のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての知識を問う
- ・ 内容は、中学校及び高校の教科書並びに地図帳をベースとし、地図や写真を使った問題を3割程度出題

【一般常識】

- ・ 高校の現代社会の教科書をベースに、新聞（一般紙）に掲載された最近の時事問題や、最新の「観光白書」に掲載されている観光をめぐる動向を加味したもの

【問題作成・合格基準】

- ・ 平均点が60点程度となるような出題に努める
- ・ 合格基準は、これを前提に、概ね60点（語学70点）

改定後

【外国語】

- ・ 日本語→外国語訳する力を重視した配点
外国語長文の読解（25点） 外国語文の和訳（15点）
和文の外国語訳（30点） 外国語による単語説明（30点）
単に外国語・日本語の同じ意味の単語を選ぶもの（削除）

【日本地理、日本歴史】

- ・ 日本の観光地等に関連する主な日本地理・日本歴史の事柄のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問う
- ・ 内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする

【一般常識】

- ・ 最新の「観光白書」や新聞に掲載された時事問題をベースに出題し、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問う

【問題作成・合格基準】

- ・ 必要以上の難問・奇問の作成を避けるため、【削除】
- ・ 合格基準は、あらかじめ示す基準点を満たせば一律合格

第2次試験（口述）

- ・ 試験時間は8分程度とする。

- ・ 試験時間は10分程度とする。